

11

APRIL
2026

GRASS NEWSLETTER



I 英国バーミンガム大学短期留学生受入

GRASS は、本学持続可能社会創成学環と協力し、英国バーミンガム大学地理・地球・環境科学部学生の短期受入プログラム Global Partnership for Sustainability Science Student Exchange を実施しました。2025年11月3日から7日にかけて、バーミンガム大学の学生10名と引率教員1名（ポール・ルチャードソン准教授）が参加しました。

本プログラムでは、一日目に富山市の協力を得て CiCビルにあるスケッチラボにて、市担当者の方より Toyama City's Smart City Initiatives と題する講義を提供いただきとともに、堀江教授より Disaster Management and Economic Development: Urban Depopulation and Compact City Challenges と題する講義を提供しました。その知見をもとに、堀江教授が引率し、市内を歩きながら講義の内容を現場で振り返る学習も行いました。二日目には、岩瀬において富山の歴史を振り返り、本学五福キャンパスではギータ・モハン教授によるトーク “Fisher's community and resilience from the Noto Earthquake” とともに、持続可能社会創成学環院生との学生交流を行いました。3日目には、Sustainable Food Resources with Modern and Traditional Technologies をテーマにしたスタディツアーを氷見にて実施しました。最後に、「元祖 仁右衛門家」にて日本文化を体験するとともに、富山の限界集落問題について地域の方と話し合う機会を得ました。

参加者からは高い評価を得たこの受入プログラムの実施について、後日バーミンガム大学地理・地球・環境科学部長より感謝状が届けられました。



写真) GRASSにて本学院生との交流



写真) 中央通りでの実習の様子

II IITカラグプール校短期留学生受入/派遣と学術交流発展に向けた協議

本学持続可能社会創成学環では、富山大学グローバル化アクションプランとインド工科大学カラグプール校（IIT KGP）との学術交流協定に基づき、IIT KGPからの院生の短期受入プログラムと学環院生の同校への短期派遣プログラムを実施しました。同時に、GRASSと同校との学術交流発展に向けた協議を富山とインドにおいて実施してきました。

まず、2025年11月25-29日に、IIT KGPからの院生4名、若手研究者1名、IIT KGPを代表して Dillip Swain 教授を富山大学に迎えました。この訪問は、本学と IIT KGP の学術交流協定調印の機会にもなっており、斎藤滋学長が調印を行いました。

また、富山のコンパクトシティへの試みを街歩きで学び、本学持続可能社会創成学環院生との交流では、互いに4名づつ研究発表を行って交流し、また、倉光英樹教授のラボ訪問や株式会社富山環境整備の廃棄物処理とその処理熱を利用した農業の実践を学ぶフィールドワークを実施したりと、充実した5日間のプログラムを実施しました。



写真) 学術交流協定調印式の様子



写真) 株式会社富山環境整備にて

派遣プログラムは、2026年1月31日から2月5日に実施し、堀江典生持続可能社会創成学環長を引率者として学環院生4名が IIT KGP を訪問しました。また、GRASS と IIT KGP との学術交流の発展、共同研究の推進のための協議を行うため、ギータ・モハン教授と和田直也センター長も同行し、具体的な教育研究協力の進展が期待できる活発な協議を行うことができました。

IIT KGP で開催されたクラシ・メーラ（農業祭）では、現地の農家や実務家と交流し、気候変動に適応可能

な農業の実践や技術に触れる機会となり、院生にとって研究を実践に結びつける社会実装の重要性に触れる機会となりました。また、IIT KGP と本学院生が参加したポスターセッションでは、吉荒玲奈さんが優秀賞（第三位）を受賞するなど、本学院生の研究が高く評価されました。飼料製造企業 JAPFA Comfeed India Private Limited の工場見学など、豊かな学習の機会が提供され、充実したプログラムとなりました。

修士課程レベルの交流プログラム、単位互換による共同学位プログラム、共同学位論文指導、国際的研究資金獲得に向けた共同プロジェクトの企画など、IIT KGP とのパートナーシップについて幅広い協議を行うことができ、今後、ギータ・モハン教授を窓口として二国間協力を更に推進していくこととなりました。



写真) ポスターセッションの様子



写真) JAPFA Comfeed India Private Limited の工場見学

III GRASS 一般公開セミナーの開催

2026年3月2日に富山国際会議場にて GRASS 主催の一般公開セミナー「競合する圧力との共生：日本とエストニアの漁村における自然災害、生態学的競合、そしてウェルビーイングを考える」が開催されました。

エストニアの NGO MTÜ Hiiukala から Tuuli Tammla 氏と Imre Kivi 氏、GRASS より Geetha Mohan 教授、東北大学より Alyne Elizabeth Delaney 博士、新湊漁業組合から野口和宏氏、石川県漁業協同組合連合会より島本卓氏が参加し、有益かつ魅力的で、深い洞察に満ちた発表が行われました。GRASS の学際的な強みが存分に発揮され、また、エストニアと北陸の漁業ステークホルダーと研究者が共に同じテーブルにつき、経験を共有する貴重な機会となりました。学生参加者も活発に議論に参加し、活発な意見交換が行われました。皆様のご参加によ

り、対話に重要な実践的な知見がもたらされました。記して感謝申し上げます。



写真) 参加者記念撮影の様子

IV GRASS Global Research Seminar

GRASS は、Global Research Seminar Series として、世界各国から先端研究を行う気鋭の研究者をお招きし、セミナーを開催しています。

2025年12月28日に開催された Global Research Seminar では、アラスカ大学フェアバンクス校修士課程学生 Miranda Peterson さんが Size and Survival of Yukon River Chum Salmon in a Changing Environment と題して研究発表を行いました。米国アラスカ州北部ユーコン川流域でのシロザケの生存率や近年の減少と地元民族への影響についての発表に、持続可能社会創成学環の院生や理学部学生のみなさんが積極的に議論にも参加しました。



写真) Miranda Peterson さんの発表の要数

また、2026年1月21日の Global Research Seminar では、海洋研究開発機構 (JAMSTEC) の Dhugal Lindsay 博士をお招きし、Towards Sustainability: Tools for Image-based Environmental Impact Assessments and Monitoring of Deep-sea and Coastal Pelagic Communities と題する講演をして頂きました。最新映像技術を用いた深海での先端研究を紹介し、今後の深海底探掘が及ぼす生物多様性への影響を議論されました。こちらも、学部生や院生が 40 名ほど集まり、熱い議論をされていました。



写真) Lindsay 博士を囲んで



〒930-8555 富山県富山市五福3190
研究推進機構 サステナビリティ国際研究センター



<http://www3.u-toyama.ac.jp/grass>